

付編1 地蔵田遺跡旧石器文化層の生活面と立地環境変遷

菊池強一（岩手県立大学）

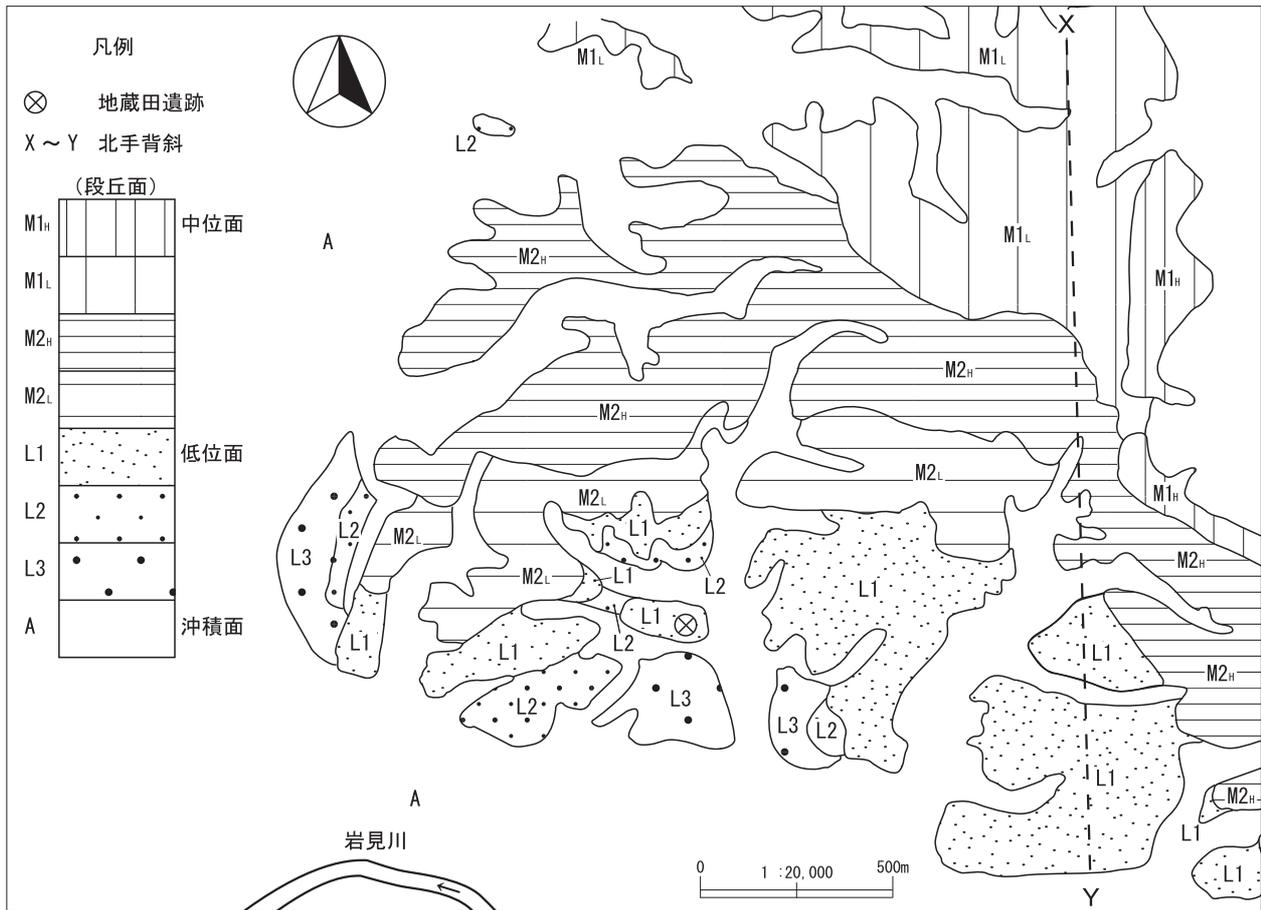
1 はじめに

著者は、2010年11月12、13日に秋田市地蔵田遺跡において、AMS¹⁴C年代測定試料採取調査に参加することができた。その結果、旧石器包含層は、第1次発掘調査の記載にしたがえば第IVa・IVb層にあり（秋田市教育委員会1986）、当時の生活面が第IVb_L層上面に分布することを確認したので、堆積学的検討を加え報告する。

2 遺跡周辺の地質地形概況（第1図）

地蔵田遺跡が立地分布する御所野台地は、秋田平野から出羽丘陵の境付近にある。御所野台地の基盤岩類は東北グリーンタフ地帯に所属し、先第三系（古生代北上花崗岩類）を基底層として、下位から上位への順で新第三系女川層・船川層・天徳寺層・笹岡層・高岡層と累重し、最上位が第四系段丘構成層となる。なお、御所野台地東側は北手背斜（X-Y）があり、海岸部の北由利衝上断層と合せ活構造域にあたる（^{註1}大月ほか1991）。

段丘面は、内藤（1965）以来、広域テフラ（町田・新井1992、2003）によるテフロクロジイを利用した地形発達史研究等により、全国的対比と編年が完成しつつある。周辺の細分段丘区分図上の位置は、低位面の最上位、L1面上に立地することが明らかになった（付編1 第1図）。



付編1 第1図 御所野台地の地形面区分図

AppendixNo.1 Fig.1. Topographical division at the Goshono terrace.

3 試掘トレンチの岩相解析と旧石器文化層の生活面（付編1 第2～3図）

地蔵田遺跡をのせるL1面構成層の堆積相は、上位より下位の順で1（I・II）、2（III・IVa・IVb_U）、3（IVb_L・IVc・V）、4（VI・VII・VIII・IX）、5（X・XI・XII・XIII・XIV・XV～）に区分される。5～3は連続する河川堆積相で上方細粒化を示し、2は降下テフラとレスを含む黄褐色ローム層、1は黒色腐植土層である。3の最上部、IVb-L層上面に干裂が認められ、当時の旧地表面を示している。VIII・IX層はシルト～シルト質粘土層となり、直立する高師小僧が密集する。後輩湿地～湖沼（三日月湖？）の層相で、5～3のインブリケーションはいずれも山から海方向への古流向を示し、当時のアナストモーゼング（網状河川）状況を反映している。

4 まとめ

A Tなど広域テフラの薄い日本海側の旧石器文化研究にとって、当時の生活面を把握する発見（河川の氾濫堆積物、いわゆるフロットローム構成層としてのclay ballとその堆積層上面に干裂などの生活面を確認）は、編年研究上に新視点を提供している。

特に、地蔵田遺跡では、乱れてはいるが当時の干裂面上に台地様石器群の各ブロックが環状に分布する。これは、L1面が段化する過程で雨期のフロットローム形成期をさけ乾季の選地が予測され興味深い。石器の母材（女川層のサガリテスを含む珪質頁岩、硬質頁岩など）は、当時の河床礫（L2面構成層）である可能性が高い。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、富樫泰時（秋田市文化財保護審議会委員長）、鹿又喜隆（東北大学）、高橋明道（秋田市教育委員会文化振興室長）、安田忠市（秋田市教育委員会文化振興室副参事）、神田和彦（秋田市教育委員会主事）、吉川耕太郎（秋田県立博物館主任学芸員）、若生貴城（岩手県立大学）の各氏より、ご配慮とご指導をいただきました。記して心より御礼を申し上げます。

註1 北手背斜と海岸地帯を南北に走る北由利衡上断層は、活構造として知られている。

註2 地蔵田遺跡が立地するL1段丘は、河成段丘であることを示す。

註3 礫種構成や円磨度などの傾向が一致する。礫や剥片には微細な褐鉄の斑紋とL1が認められる（菊地2001）。遺跡は、自然堤防から平坦な河畔の草地に立地した可能性を示している。

参考文献

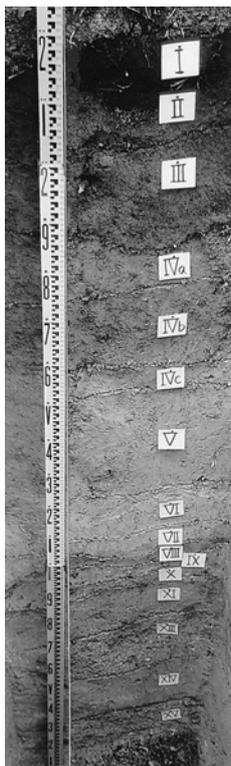
- 内藤博夫 1965 「秋田県岩見川流域およびその周辺の段丘について」『第四紀研究』4 - 1 pp.23-34
- 藤岡一男・大沢稔・高安泰助・池部穰 1977 「秋田地域の地質」『地域地質研究報告（5万分の1地質図幅）』地質調査所
- 秋田市教育委員会 1986 「秋田市 新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—地蔵田B遺跡 台A遺跡 湯ノ沢I遺跡 湯ノ沢F遺跡—」
- 大月義徳 1991 「第四紀中後期における北由利衡上断層系の活動と出羽丘陵の地殻変動」『日本地理学会予稿集』45 pp.208-209
- 町田洋・新井房夫 1992 『火山灰アトラス 日本列島とその周辺』東京大学出版 pp.134-137
- 菊地強一 2001 「石器の産状は何を語るか」『科学』71-72 pp.160-165



カラー写真は図版3-2～4参照

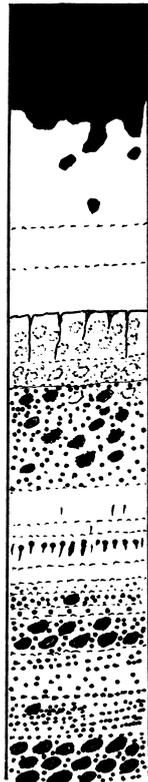
付編1 第2図 第IVb-L層を構成するclay ballの産状
 (右上はclay ballの拡大写真。木炭片と石屑は第IVb-u層と干裂中から出土。)
 AppendixNo.1 Fig.2. Clay ball in Stratum IVb-L.

1次調査層序区分



カラー写真は図版3-2参照

柱状図



岩相	インプリケーション	特色	環境
1 黒色腐植土		腐植土中にテフラ (To-a?) (To-C?) (To-H?)	・地表 ・寒冷気候下でレス・テフラの降下堆積
2 ローム (レス・テフラを含む)		AT (?) 30,110±140 ^{cal} CyrBP	・地蔵田遺跡(MIS3後半初頭の旧石器文化) ・アナストモーゼング(網状河川と氾濫源、自然堤防、後背湿地、三ヶ月湖の形成など)
3 silty clay clay ball 砂礫	N70°W, 26°NE N80°W, 28°NE	フラットロームの堆積	
4 シルト～泥	N38°E, 22°NE N12°W, 28°NE	直立する高師小僧	・後背湿地(三ヶ月湖?)
5 砂礫	N80°E, 28°NE		・アナストモーゼングの拡大と段化の進行

付編1 第3図 地蔵田遺跡試料採取トレンチの柱状図と層相解析表
 AppendixNo.1 Fig.3. The stratigraphy at the Jizouden Site.